

広島ドラゴンフライズの新B1参入に向けた県の協力方針について

1 要旨・目的

広島ドラゴンフライズ（以下「ドラフラ」という。）から、新アリーナ建設までの間、広島県立総合体育館大アリーナ（以下「グリーンアリーナ」という。）をホームアリーナとして利用したいという要望があった。

県は、グリーンアリーナの利用団体や広島県スポーツ推進審議会での意見を踏まえ、ドラフラが、新B1参入に向け、グリーンアリーナを「暫定的」にホームアリーナとして利用することに協力する。

2 経緯

ドラフラの新B1参入について、令和5年3月に浦社長が湯崎知事を表敬訪問し、要望書を手交した。主な要望事項は次のとおり。

（要望事項）

- ・ 新アリーナ建設までの間、グリーンアリーナをホームアリーナとして利用したいこと。
- ・ 新B1に参入するため、新アリーナ基準を充足するようグリーンアリーナなどを改修すること。なお、改修費用については、クラブが負担する。

3 利用団体へのヒアリング

ドラフラ及び県が、Bリーグのシーズン中、定期的な大規模な大会等を実施している競技団体等へヒアリングを行った。競技団体等からの主な意見は次のとおり。

（主な意見）

- ・ 中国地方で最大の規模を誇るグリーンアリーナは、定例的な中国ブロックの競技大会などで利用するため、利用調整の機会が必要である。
- ・ 新アリーナができるまでの「暫定的」な利用であるという前提で協力は可能であるが、期間の目途を示してもらいたい。
- ・ 競技大会や興行ができる場所、選択の幅が広がるため、新アリーナへの期待は大きい。
- ・ 新アリーナについては、興行関係者の意見を聴取した上で、広島県民、広島県を訪れる方々のために、より良いものを検討していただきたい。

4 利用団体からの意見を踏まえたドラフラの対応

競技団体等からの主な意見を踏まえ、ドラフラから次のとおり対応すると説明があった。

（ドラフラの対応）

- ・ 施設管理者が行う利用調整に協力する。
- ・ 現時点で、新アリーナの具体的な計画はないが、新B1リーグが始まる2026-27シーズンから5シーズン程度を目安に、グリーンアリーナを暫定利用したい。
- ・ スイートスペースなど、新アリーナ基準を充足するための施設の改修については、時代の変化に合わせたより魅力的な施設となるよう、クラブの負担において改修を行い、県へ寄附する。なお、施設の改修は、技術的な要件などについて県と協議し、合意の上、実施することとする。

5 広島県スポーツ推進審議会の意見

7月11日（火）に開催した広島県スポーツ推進審議会において、ドラフラの対応及び県の協力方針について説明し、「議論の状況を踏まえ、県として施策を進めてほしい。」との意見があった。

主な質疑応答の状況は次のとおり。

(主な質疑応答)

| 質 疑 | 回 答 |
|------------------------------------|---|
| 利用料金に影響はあるのか。 | <ul style="list-style-type: none"> ドラフラがグリーンアリーナを暫定的にホームアリーナとして利用することによる利用料金への影響はない。(県) |
| 平均4,000人以上の観客を入れる戦略はあるのか。 | <ul style="list-style-type: none"> 今シーズンまで1,000席の自由席を設けていたが、企画チケットの着券率は30%程度である。「いつ来てもいいですよ」というオファーだとなかなか来ていただけない。逆に日付と席が指定されていると着券率は85%程度になる。今シーズン(2023-24シーズン)からは、全席指定にすることとしたい。(ドラフラ) |
| 施設改修をクラブ負担で行える財務状況なのか。 | <ul style="list-style-type: none"> 6期連続の黒字となる見通しであり、現在、債務超過も解消している。なお、改修費用については、クラブ、親会社を含めて全額負担する準備はできている。(ドラフラ) |
| ユース世代の育成など、もう少し地域とのつながりをもつべきではないか。 | <ul style="list-style-type: none"> ドラフラとしては、長い間、B2からB1にあがることに最大限の注力をしており、ユースの育成にも取り組んでいるが十分に整っていなかった。プロスポーツ界で、広島は「育成の広島」と言われている。我々も今後、しっかりやっていきたい。(ドラフラ) 一方、選手は、短期でいい活躍をして、条件の良いチームへ移籍する。自ずと短期契約になる傾向がある。県民の方々からすると、選手をしっかり応援していくという雰囲気醸成しにくいという状況もある。この点は、少し長期的に見ていただけるとありがたい。(ドラフラ) |
| 利用調整は本当にできるのか。 | <ul style="list-style-type: none"> 新B1では、平日の試合も増える。土日も、できる限り試合を連続して行うことで、他の利用団体に迷惑がかからないよう調整したい。(ドラフラ) 2年前の早期内定、1年前の予約と2段階で利用調整をしている今のルールを見直す必要があると考えている。Bリーグがカーディングのルールを発表したら、どのように利用調整を図っていくのか、検討したいと考えている。(県) |
| 「暫定的」な利用とはいうが、新アリーナの青写真はもっているのか。 | <ul style="list-style-type: none"> 現時点で、公に説明できることがないということであり、動きはとっている。2年以内には青写真をお示しできるよう取り組んでいきたい。(ドラフラ) |

6 県の協力方針

(1) 概要

新B1リーグが始まる2026-27シーズンから5シーズン程度を目安に、ドラフラが「暫定的」にグリーンアリーナをホームアリーナとして利用できるよう、シーズンごとに必要な利用調整を行う。また、新B1のアリーナ基準充足に向けた施設の改修を認める。

(理由)

- ・ ドラフラは、広島が誇るクラブへと成長を続けており、その活躍、クラブの発展は、県民の誇りや地域の活力につながるものである。また、地域貢献活動にも積極的に取り組んでおり、地域に根差したクラブになっている。
- ・ 現状では、県内には、アリーナ基準（スイートスペース、ラウンジの整備など）を充足する施設はなく、一部改修により基準を充足することのできる施設はグリーンアリーナのみである。
- ・ 競技団体等の関係者は、新アリーナが建設されるまでの間の「暫定的」な利用であること、シーズンごとに必要な利用調整を行うことを前提に、理解、協力の意向を示している。

(2) 改修の実施方法

アリーナについては、Bリーグが新B1アリーナ基準を示したこともあり、附属設備としてスイートスペースなどを備えるアリーナが全国的に増えてきている。

このような状況の中、竣工後30年が経過したグリーンアリーナにおいても、時代の変化に合わせたより魅力的な施設となるよう、クラブの負担において、スイートスペースを含め施設の改修を行い、県が寄附受納することとする。

なお、施設の改修は、県の施設運営に支障が生じることのないよう、ドラフラは、技術的な要件などについて県に協議、合意の上、実施することとする。

7 今年度のスケジュール（予定）

8月～ ドラフラがBリーグとアリーナの改修内容について調整

10月 ドラフラが新B1参入表明

8 予算

—